



感謝の気持ちを込めて・・・

交通安全母の会の東海林 清子（しょうじきよこ）様が、ご病気で亡くなりました。69歳でした。東海林さんは、昨年の12月末まで毎朝、観音寺近くの交差点に立ち、子どもたちの安全な登校を見守って下さいました。3学期になり、交差点に立たなくなった理由を母の会の会長である丹治吉（たんじよし）さんにお聞きしたところ「東海林さんは、腰が痛むようでしばらく休みます」ということでした。私は、暖かくなればまた立ってくださるのだろうと思っていました。ですから、今回亡くなられた知らせを聞き、ただただ驚くばかりでした。

東海林さんは、長年にわたって子どもの交通安全のために、交差点に立って下さいました。東海林さんが立つ交差点は、朝の通勤の車はもちろんのこと、トラックや大型バスなどもとおり、一歩間違えれば交通事故につながりかねないような場所です。そこを子どもたちが安全に横断できるように、東海林さんは、誘導して下さいました。

また、学校で実施する交通教室やマラソン大会などにも会長の丹治さんたちとともに毎年お出でいただき、子どもたちを指導して下さいました。ほとんどの子どもたちは、東海林さんの名前は知らなくても、顔は知っているはずです。

いつも子どもたちのことを温かく見守って下さいました。笑顔で「おはよう！」「頑張って！」などと子どもたちに声をかけていただいたことがとても印象に残っています。

東海林さんについては、ご存知の方もいるかと思いますが、今から32年前（昭和62年）、当時本校の3年生だった息子さんを交通事故で亡くされています。息子さんは、学校帰り、横断歩道を渡っているときにスピードを出した車にはねられ、命を落としました。東海林さんにとっては、かけがえのないご自身の息子さんの命を奪われ、大きな悲しみだったに違いありません。二度とこうした交通事故が起きないことを願って、本校の図書室には「慎くん文庫」が設けられています。（慎くんは、息子さんのお名前）

東海林さんが毎朝、交差点に立ち、子どもたちに笑顔で「おはよう！」と声をかけ、道路の横断を誘導して下さっていたときの心の中は計り知ることはできませんが、おそらく子どもたちの命の大切さを人一倍願っていたことと思います。

東海林さんの子どもたちへの慈愛、そして子どもたちの安全をしっかりと守って下さったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

心からご冥福を祈りたいと思います。